



クボデラ株式会社

～ 首都圏サービスセンター 木材加工設備概要 ～

クボデラ株式会社の造作材邸別加工拠点「首都圏サービスセンター」の機能と主な設備の紹介をいたします。弊社は、お取引先様のニーズにこたえていくべく、今後とも設備等の拡充を進め、木材加工領域の拡大と生産性の向上に努めてまいります。

豊富な木工機械設備を集約

クボデラ株式会社は、さいたま市の首都圏サービスセンターに、主に造作材加工を行うための木工機械設備を集約しています。

集塵機、垂直プレス、サンダ、帯鋸盤、横切丸鋸盤、リップソー、手押し自動かな、超仕上げ盤、5軸加工モルダ、多機能型自動万能機などが設置されています。充実した木工機械設備と経験豊富な製造担当者、目利きによる最終仕上げが弊社の強みです。





造作加工で機械化が必要な理由

首都圏の各種木材加工は、需要減、経営者の高齢化、後継者難、人手不足、地価高騰などで事業者が年々減少し、十分な設備を有する事業者は限られています。一方、今も頑張って木材加工に取り組む事業所は、マシニングセンターをはじめ新鋭の木工機械を導入するなど、積極的な設備投資姿勢が見られます。慢性的な人手不足や職人の高齢化などで、どうしても機械化が必要になっているからです。

職人や大工等の減少も顕著です。それまで自前の加工場で造作、建具、家具などを製作してきた大工職人が加工場を閉じ、外部に加工委託するケースが増えています。確かに都心部の大工や職人にとり、仕事が減少するなかで、加工場を維持していくことは大変で、高齢化がこうした変化を加速させています。都心では地価の高騰も加工場の存続を困難にさせる一因だと思います。



図面に基づき丁寧に仕上げていきます

当社の造作材加工の依頼も、そうした傾向は顕著で、本来、職人さんが仕上げ加工を担ってきた造作、建具の工場加工が増えています。首都圏サービスセンターは構内に加工人員を7人配し、1日当たり300丁（材積で約2立方尺）の造作材加工を行っています。

お客様から頂いた図面に基づき、一つ一つを丁寧に仕上げています。最近は住宅向け造作加工だけでなく、商業店舗内装や、飲食店舗カウンター材等の受注も増えています。1丁から対応し、最後は目利きの力で仕上げていくのが当社の強みです。



豊富な原材料在庫で迅速対応

センター内倉庫には、原産地証明を受けた杉、桧、ベイツガ、スプルース、米松ピーラー、米ヒバ、ナラ、タモ、ヨーロッパアンアッシュ、チーク、雲杉、各種南洋材などの粗挽き原板をふんだんに在庫しています。また、新木場をはじめ、当社取引先との緊密な連携による原材料調達も行っています。昨今は急ぎの引き合いが多くなっており、見積もりから納材まで迅速に対応していくには豊富な原材料在庫を持つことが重要です。

当社は、一般社団法人木材表示推進協議会の会員登録事業体、合法木材供給事業者の認定を取得しています。また、ミャンマーチークなどの希少木材については、原産地証明、輸出許可等の厳格な取り扱いを行っています。また、工場は造作材のJASの工場認定を取得しています（左写真）。

設備紹介 その①

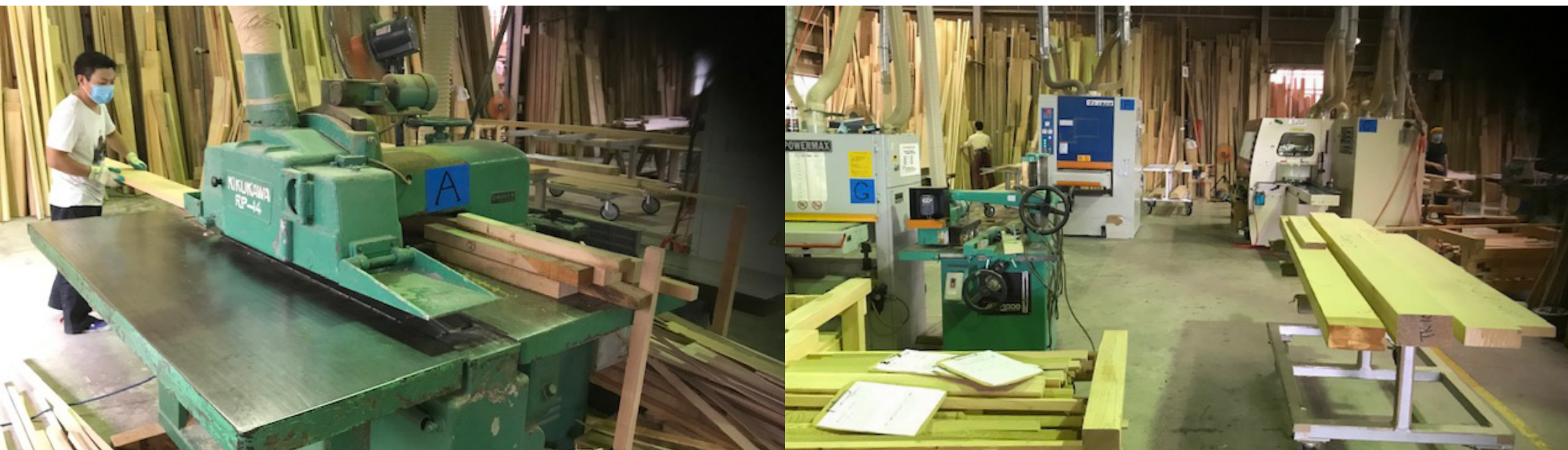
当社は製材の長さをカットする横切丸鋸盤、割り返し・ずりなどに使用する木工帯鋸盤、また、幅決め行うリップソー（縦挽き丸鋸盤）を2台設置しています。横切丸鋸盤は、丸鋸軸と移動テーブルからなり、木材をテーブル上を手動で移動させ、縦挽き加工するものです。木工帯鋸盤はフレームに取り付けた上下2つの鋸車に帯鋸を掛けて緊張させ、一方の鋸車によって駆動し、テーブル上で木材を主として引き回し加工します。リップソー（リップパ）は水平丸鋸軸と自動送り用の履帯を備え、木材を縦挽き加工します。

主な設備

①横切り丸鋸盤（小林機械工業）

②帯鋸盤

③リップソー2機（キクカワ）





設備紹介 その②

当社は、手押しかんな盤、自動4面モルダ、手押しかんな付き万能機などのかんな盤を設置しています。モルダとは、回転する複数の横軸、たて軸、送り装置からなり、主テーブルを固定し、軸の左右上下移動ができ、各軸にかんな胴または成形カッタを取り付けて1本の木材を4面削り加工するかんな盤です。飯田工業のモルダの『ウッズマン』は通常幅240^{mm}高さ140^{mm}まで加工します。

手押しカンナ盤とは、回転するかんな胴と昇降できる一体のテーブルからなり、木材を手動送りし、主として基準面をつくる際に用います。材料をテーブルに押し付けながら送り出すことによって材料の下面を削り、平らな基準面をつくりだすことができます。

飯田工業のウッズマン

設備紹介 その③

超仕上げかな盤は、手押しかんな盤によって加工された面を下にして、自動的に材料を送りながら上面を削り、厚さ決めをします。回転する横かな胴、昇降できるテーブル及び送り装置からなり、木材の基準面をテーブルに当てて自動送りし、他の1面を切削することによって、主として厚さを決めます。自動4面かな盤は、自動2面かな盤の送り出し側テーブルの左右に、たてかな軸を置き、むら取りと板厚を決められた面に垂直に他の二面を削り、断面を決めます。

主な設備

- ①手押し自動カンナ=300 ㍉幅まで可能
- ②超仕上げかな盤=各種木材仕上げに使用
- ③モルダ (飯田工業のウッズマン)=幅 240× 高さ 140 ㍉
- ④モルダ=5軸加工
- ⑤自動万能機=手押しカンナ、プレナ、溝加工にも対応





自動万能機

設備紹介 その④

当社は、研磨布紙などによって、木材を研削します。当社はサンダを2台、ルータ及び自動万能機（前出）を設置しています。ルータは12～13ミリの深さまでで、曲線加工などに使用しています。

ルータとは、高速回転する垂直主軸、コラム、昇降できるテーブルからなり、主としてテーブルの中心に取り付けられたセンターピンを案内とし、型板などを利用して木材を手動送りして、各種加工をします。

自動万能機（写真：上）では、手押しかんな、プレナ、溝加工などに対応します。当社は垂直プレス（小林機械工業）を設置しています。長さ1800ミリ、厚み50ミリ、幅600ミリまで投入でき、幅ハギ、積層加工機械で神棚製作に使用しています。



サンダ①=1枚歯 500ミリ幅まで可能です



サンダ②=台湾製 2枚歯 600ミリまで可能です

新たな木工機械も続々導入されます

首都圏サービスセンターは、さらに木材加工領域を広げるとともに、量産による生産性向上を目指し、20年未までに、3D方式CNCルータ、フラッシュプレス、ほぞ取り盤、レーザー加工機、4軸モルダを導入します。これら最新鋭設備を活用し、金属下地と融合させた全く新しい木質内装材の開発にも取り組んでまいります。

設置の際にはお取引先をはじめ、多くのお客様に見ていただき、新規のご商売にも役立てていただきたいと思います。



3D方式CNCルータ



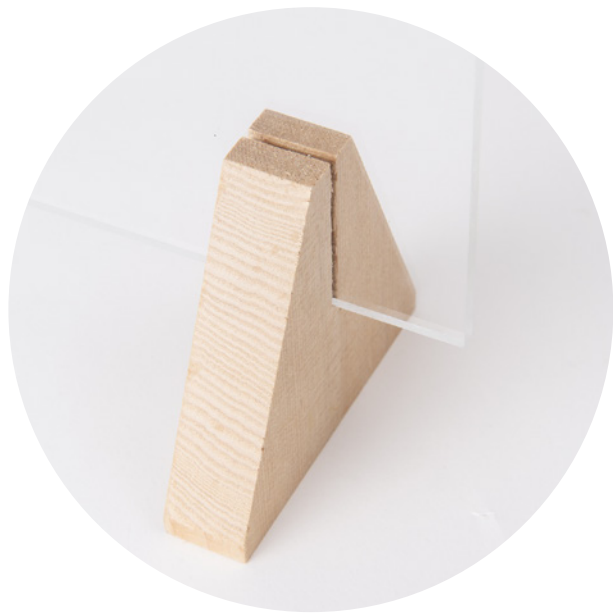
フラッシュプレス



4軸モルダ

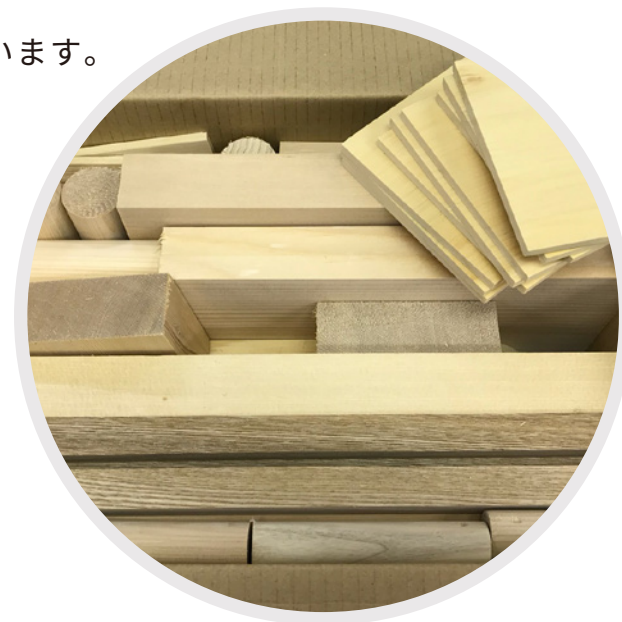
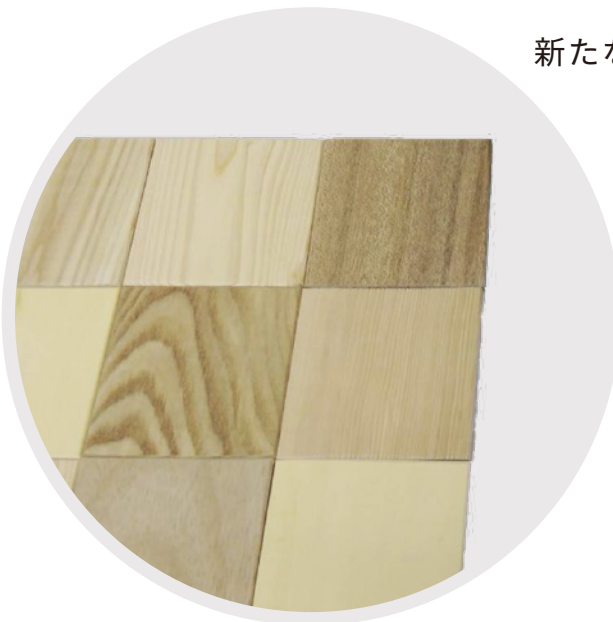



レーザー加工機



端材も有効活用しています

造作加工の際に発生する端材も有効活用し、
新たな商品を開発し、インターネット販売なども行っています。





最後までお付き合いいただき、ありがとうございました

◆ **クボデラ** 株式会社

本社・東京営業本部

〒165-0027 東京都中野区野方4-44-10 3F

電 話 03-3386-1153

F A X 03-3386-1165

E-mail info@kubodera.co.jp

U R L <https://kubodera.co.jp/>

首都圏サービスセンター

〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷3-15-16

電 話 048-845-7255

F A X 048-845-7256